【ねがいましては】

平成２８年６月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第３０８号

「grit」

グリット・・・辞書からは、「根性」や「勇気」という意味が調べられます。

ある日インターネット上で、ひとつの記事に目がとまりました。（TED・・・NHK でも時折やっているようです。）

『成功のカギは、やり抜く力』題名からはそれほど関心もなかったのですが、文を読み進めてみると興味深いことが書かれていました。「27 才のとき、私は経営コンサルタントのとてもきつい仕事を辞めて、もっときつい仕事につきました。『教師です』」・・・この教師ですという言葉に「なにっ！」っと、続きを読まざるを得なくなったわけです。

教職がとてもきつい仕事だということをしっかり理解している方がいる。なぜ教師になったのかは不明です。

この方は女性、２７才で教師へ転職、教職在任中にある疑問に気づき大学院へ、そして心理学者になっています。

成功へつながる共通したもの・・・才能・努力。これだけでは説明できないことが教員時代に多々あったわけです。

教育の物差しによく使われるものとして IQ があります。これが高くても成績は振るわない。これが低くてもしっかりと結果を出す。そのちがいはどこにあるのか。それを研究するために、大学院へ進学、心理学者になったということです。そしてある結論が見えてきたわけです。

成功を収める人たちに共通したもの・・・「grit」というわけです。

先ほども記しましたが、grit は、根性とか勇気という意味で辞書には紹介されています。しかしこれを和訳された方は、とても上手い表現で表しています。「やり抜く力」という表現です。インターネット上でいろいろ調べていくうちに複数の方がこのスピーチを訳されているのですが、ある方はグリットとそのまま使用、そして先ほどの方は「やり抜く力」と訳されています。

そのスピーチの中から特に気になった文を抜粋します。

・私は確信しました。IQ の数値に関係なく、生徒たちは誰でも皆、時間をかけて勉強に取り組みさえすれば、必ずできるようになることを。
・数年の教員生活を通して、私は１つの結論を見いだしました。教育に必要なことは、心理学的な見地から、もっと子どもたちを理解してあげること、もっと子どもたちがモチベーションを高めながら学べる環境をつくってあげることだ、と。
・やり抜く力は短距離競走ではなくマラソンを走るように生きることです。
・成功を収める人たちは、共通してある１つの性格を持っていることが明らかになったのです。「やり抜く力」です。
・「やり抜く力」とは、物事に対する情熱であり、また何かの目的を達成するためにとてつもなく長い時間、継続的に粘り強く努力することによって、物事を最後までやり遂げる力のことです。
・「やり抜く力」はスタミナを必要とします。１週間、１ヶ月といった短時間ではありません。数年間ずーっとです。頑張って、頑張って努力し続ける、そうすることで、やがて夢や目標が現実のものとなります。
・たくさん失敗して、失敗から学んだことを次に生かして、何度でもやり直しましょう。
・言い換えれば、まずは私たち大人が見本となり、「やり抜く力」を持った人間にならなければなりません。そうすれば私たちの子どもたちも、より「やり抜く力」を持った人間に育つのではないでしょうか。

特に気になるのは最後の文です。私たち大人が子の前で堂々と失敗をやってのけること。それにめげない姿勢をとり続けること。失敗を恐れずに積極的に挑戦し、失敗を重ね続ける・・・。

ふだん我が子には失敗しないようにと「願」をかけ続ける方、失敗して格好わるい姿を見られまいと必死になる方。

どちらも逆行した行動に見えます。

相田みつをさんの詞が浮かんできました。その一節を紹介します。

「負ける練習」（一部抜粋）
早くから勝つことを覚えるな
負けることをうんと学べ　恥をさらすことにうまくなれ
そして下積みや下働きの苦しみをたっぷり体験することだ
（中略）
そして
負け方や受身の　ほんとうに身についた人間が
世の中の悲しみや苦しみに耐えて
ひと（他人）の胸の痛みを　心の底から理解できる
やさしい暖かい人間になれるんです。